

天文学とプラネタリウム

第41回

今月のお題

アラブで宇宙を語る。



天文学の未来は中東にあり。



www.tenpla.net

高梨直紘 (東大D3/天文学教育研究センター所属)

平松正顕 (東大D3/国立天文台ALMA推進室所属)

天文学は、お金のかかる学問です。日本のすばる望遠鏡の建設にはおよそ400億円、年間の運営費はおよそ30億円が投じられています。アメリカやヨーロッパなどとともに、南米チリに建設中の電波望遠鏡群であるALMA (アルマ) 望遠鏡の建設費は、計画全体で1000億円程度。私たちの日常感覚から言えば気が遠くなるような額ですが、もっともとお金があるにこしたことはありません。お月様の上に100m級の望遠鏡なんか建設できてしまった日には、これまでに全く私たちが知らなかった宇宙の姿が見えてくることでしょう。どこかに、おっきい望遠鏡を作ってくれるような、お金があってあってしょうがないような、奇特な方はいないでしょうか…。

アラビア世界が熱い

砂漠の中のスキー場、世界一高いビル、海中ホテルに宇宙から見える人工島…。そんな建造物が次から次へと造られている地域があります。そう、中東地域です。オイルマネーの活況に湧く中東地域では、いま、急激な経済発展が進み

つつあるのです。もちろん、これらの建造物は、石油が枯渇する将来を見越して、リゾートビジネスで生き抜いていこうとする中東地域のしたたかな戦略でもあるのですが…でも、お金がまわっているようにしか見えませんよね。

例えば、サウジアラビアの石油産出量は年間24兆円。このうちの半分は国庫に入り、半分の12兆円は王族で活用するそうなのですが、もしひとりでても天文学にどっぷりはまっている王族がいれば、1000億円くらい趣味に投じてくれたりしないのでしょうか。近年では中東の天文学は残念ながらあまり盛んではありませんが、その灯火を復活させる！そんな志をもった王族がひとりでてもいれば、相当天文学が発展するのではないかと思います。もしそんな事を考えている王族がいらないのなら、考えてもらえば良いのではないのでしょうか？

アラビア語で天文学を語れ！

そんなわけで、天ブラでは中東に向けて天文学を発信する方法を模索中です。例えば天ブラで開発した天文タイピングゲーム「宇宙打」の



土星飴の在庫を前に頭を抱える高梨(左)と平松(右)

アラビア語版や、最新の天文学をわかりやすくアラビア語で解説するポッドキャストなんかも良いかもしれません。すばる望遠鏡見学ツアーを中東向けに募集してみるのも楽しそうです。子ども向けの宇宙音頭みたいなものを作って、アラビア語の解説を付けてYouTubeに投稿してみる、などなど。こんなことやったら楽しいんじゃないの？というアイデアがある方は、ぜひひびご教示下さいませ。